

「利尻海藻押し葉・押し花融合作品」 全国コンクール開催事業

NPO法人 利尻ふる里・島づくりセンター

事業の目的

当団体は、利尻島に賦存する資源の蘇生に関する事業を行い、地域の活性化を図るとともに、新たな雇用の創出を図ること、及び、次代を担う子どもたちが安心して暮らせるよう利尻島の豊かな自然環境を守っていくことを目的に活動を行っています。

雑海藻の有効的活用に向けて

本事業は、利尻町開基百年を機に、前身の任意団体である実行委員会が1999年に着手した事業です。地域課題となっていた利用価値のない雑海藻の有効活用を図るための取り組みを継続しました。

きっかけを与えていただいた札幌市在住の押し花作家たけだりょう氏の協力のもと、これまでにない発想の転換により雑海藻をアートの素材として活用する「海藻押し葉」による地域づくりを検討しました。

利尻島に生育する海藻の種類毎に塩抜き、乾燥時間、プレス重量などのデータを収集するなど試行錯誤の末、独自の海藻押し葉の製造技術を取得しました。また同時にインストラクターの育成にも着手し、町民への体験会、小中学生への体験教室を開催しながら利尻海藻押し葉の普及活動を推進してきました。



利尻昆布の乾燥作業風景

利尻海藻押し葉の普及活動

更なる普及拡大のため2004年9月には全国で初の「利尻海藻押し葉・押し花融合コンクール」を開催し、応募者が700人を超える予想外の嬉しい展開となりました。応募者全員に、参加キットとして利尻海藻押し

葉を送り、それを使って作品を制作するという条件としたので、利尻の海藻を全国にPRするきっかけとなりました。また、旅行会社による展示会鑑賞ツアーの企画もあり、たくさんの観光客や参加者が訪れるなど地域経済の活性化にも貢献したものと思います。

全国コンクールの開催

地域活性化活動助成を活用した事業は、利尻町開基120周年に当たる2019年9月に第3回目となるコンクールとして開催しました。

テーマは令和の元号にふさわしい「新しい和の時代」として募集を行いました。応募作品は200点にのぼり、利尻町交流促進施設「どんと」で9月21日～9月29日の間に作品展示会が開催されました。利尻の海藻が様々な発想のもとで姿を変え制作された作品に、無限に広がる可能性を感じる思いでした。



作品展示状況



作品展示と子どもたちによる作品作り体験

このような20年間にわたる取り組みが認められ、2019年には上皇皇后陛下に対し、北海道からの記念品献上品として利尻海藻押し葉作品が選ばれるという栄誉を賜り、関係者一同これまでの苦労が報われたという感激と共に、地域の独自文化の確立に一層の努力をしていく決意を強くしました。

作品移動展の開催

2020年には、独自文化の確立を全国にPRするため、このコンクールで入賞された作品40点の移動展を企画していましたが、コロナ渦の影響により東京での開催は中止となったものの、感染状況を考慮しながら9月1日から9月30日の間に「離島キッチン札幌店」を会場として移動展を開催しました。人数を制限しての開催でしたが、全道各地から約3千人の方々が来場され、利尻島の海藻の魅力を中心にPRすることができました。また、移動展の開催状況をインターネットで全国配信するなど、コロナ禍のなか会場に来ることができない方々へも海藻の魅力をお知らせすることができました。



離島キッチン札幌店での移動展開催状況

資源蘇生の活動拠点

現在、当センターの活動拠点は、利尻町沓形字本町^{くつがた}に住所を有する「島の駅 利尻」内にあります。この建物は旧海産問屋「兼上渡邊商店」という築130年の歴史を誇る建造物で、当時はニシンや利尻昆布、タラなどで大いに隆盛しました。当センターの「資源蘇生」の活動方針から、空き店舗となっていた当建造物を、2007年に町内有志の労力奉仕により活動拠点として再生されました。



旧海産問屋を再生した活動拠点の「島の駅 利尻」

島の駅利尻では、裏庭にある石蔵を改修しギャラリー「海…エメラルド」として再生し、海藻押し葉作品や2019年に上皇皇后陛下へ北海道命名150年記念式典に来道された記念品として献上された海藻押し葉作品のオマージュ作品などを展示しています。

また、母屋はカフェ自休自足「利尻に恋し店」として営業しており、地域住民と観光客の交流の場として賑わいをみせています。そのほか海藻押し葉の体験工房やFMわっぴーのサテライトスタジオも併設されていて、まさに地域づくりの拠点として行政と連携しながら活動を進めています。



母屋に併設する体験工房

今後の活動展開

本事業の実施等により、利尻島の独自文化である「海藻押し葉」の全国的な知名度の向上が図られました。

今後は次世代の主力となる子どもたちに対し、海藻押し葉の環境活動としての側面をSDGsで明確化し、利尻島が「自然」と「食」だけではなく、環境活動としてアートに取り組んでいることのPR活動を図り、未来に誇れる町づくりを継承していきたいと考えています。